十文字学園の歴史

1922（大正11年）	●文華高等女学校開校。創立者、十文字こと、戸野みちゑ、斯波安。校歌制定、開校式。学校長・戸野みちゑ。

大正11年２月15日、現在の東京巣鴨に「文華高等女学校」が産声をあげた。今から70余年前、現在の「十文字学園」の前身、その輝かしく、そして記念すべき誕生の日である。それは、東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）の同窓生、戸野みちゑ、十文字こと、斯波安の３人の長年の夢が結実した日でもあった。女子の体位向上を骨格とした女子中等教育の普及、実現という大きな夢である。

（『十文字学園70年史』より）

1930（昭和５年）	●文華高等女学校附属幼稚園設置認可。
1935（昭和10年）	●十文字こと、学校長に就任。
1937（昭和12年）	●十文字高等女学校に校名変更。
1945（昭和20年）	●戦災のため校舎、講堂、体育館を焼失。
1947（昭和22年）	●新制 十文字中学校開校。
1948（昭和23年）	●新制 十文字高等学校開校。
1951（昭和26年）	●学校法人十文字学園に組織変更。 ●十文字こと、理事長に就任。 ●十文字こと、藍綬褒章受章。
1955（昭和30年）	●十文字こと、死去。十文字良子、理事長に就任。
1966（昭和41年）	●校舎完成（本館、１号棟、３号棟）。 ●十文字学園女子短期大学開学（家政科、幼児教育科）。 ●武田一郎、短大初代学長に就任。
1968（昭和43年）	●十文字短大附属幼稚園開園。
1970（昭和45年）	●体育館完成。
1973（昭和48年）	●初等教育学科、文学科（国語国文専攻、英語英文専攻）を設置。
1974（昭和49年）	●２号棟完成。 ●坂元彦太郎、短大第２代学長に就任。 ●家政学科を家政専攻と食物栄養専攻に分離。
1976（昭和51年）	●４号棟完成。 ●専攻科設置（国文、英文、家政、食物栄養、幼児教育、初等教育）。
1979（昭和54年）	●５号棟完成。
1983（昭和58年）	●十文字良子、勲三等瑞宝章受章。
1985（昭和60年）	●図書館完成。
1987（昭和62年）	●６号棟完成。 ●十文字良子、死去。十文字一夫、理事長に就任。
1988（昭和63年）	●学生ホール、テニスコート完成。
1989（平成元年）	●教養学科設置。初等教育学科募集停止。
1990（平成２年）	●初等教育学科廃止。
1991（平成３年）	●鈴木一雄、短大第３代学長に就任。 ●専攻科教養専攻設置。
1992（平成４年）	●７号館完成。 ●家政学科家政専攻を家政学科生活学専攻に名称変更。
1993（平成５年）	●学位授与機構による認定専攻科食物栄養専攻を設置。
1994（平成６年）	●学位授与機構による認定専攻科国文専攻、生活学専攻、幼児教育専攻設置。 ●認定専攻科食物栄養専攻が３年制の栄養士養成施設に認定。
1995（平成７年）	●８号館完成。

1996（平成８年）	●十文字学園女子短期大学教養学科募集停止。 ●十文字学園女子大学開学（社会情報学部社会情報学科）。 ●鈴木一雄、大学初代学長に就任。
1997（平成９年）	●十文字学園女子短期大学教養学科廃止。 ●認定専攻科食物栄養専攻が学位授与機構より２年制専攻科に認定、厚生省より４年制の栄養士養成施設に認定。
1998（平成10年）	●十文字佑子、短大附属幼稚園長に就任。
1999（平成11年）	●９号館完成。 ●学位授与機構による認定専攻科 英文専攻設置。
2000（平成12年）	●十文字学園女子短期大学家政学科生活学専攻募集停止。 ●十文字学園女子大学社会情報学部コミュニケーション学科開設。 ●十文字学園女子大学留学生別科開設。
2001（平成13年）	●十文字学園女子短期大学家政学科生活学専攻廃止。
2002（平成14年）	●十文字学園女子短期大学家政学科食物栄養専攻、幼児教育学科募集停止。 ●十文字学園女子大学人間生活学部（幼児教育学科、食物栄養学科）開設。 ●十文字学園女子短期大学を十文字学園女子大学短期大学部に名称変更。 ●十文字一夫、学長代行に就任。
2003（平成15年）	●鶴木眞、大学第２代・短期大学部第４代学長に就任。 ●記念ホール完成。 ●十文字学園女子大学短期大学部幼児教育学科廃止。 ●認定専攻科幼児教育専攻廃止。 ●認定専攻科食物栄養専攻募集停止。 ●十文字短大附属幼稚園を十文字女子大附属幼稚園に名称変更。
2004（平成16年）	●十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科、人間発達心理学科設置。
2005（平成17年）	●十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科に介護福祉士指定養成施設（厚生労働省認定）として介護福祉コースを設置。 ●十文字学園女子大学短期大学部家政学科食物栄養専攻廃止。 ●認定専攻科食物栄養専攻廃止。
2007（平成19年）	●宮丸凱史、大学第３代・短期大学部第５代学長に就任。 ●十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科を児童幼児教育学科に名称変更。併せて２専攻（幼児教育専攻・児童教育専攻）設置。
2009（平成21年）	●10号館完成。
2010（平成22年）	●十文字学園女子大学大学院人間生活学研究科食物栄養学専攻（修士課程）設置。
2011（平成23年）	●横須賀薫、大学第４代、短期大学部第６代学長に就任。 ●十文字学園女子大学社会情報学部及び人間生活学部募集停止。 ●十文字学園女子大学人間生活学部（幼児教育学科、児童教育学科、人間発達心理学科、食物栄養学科、人間福祉学科、生活情報学科、メディアコミュニケーション学科）設置。
2012（平成24年）	●十文字学園女子大学短期大学部文学科募集停止。 ●十文字学園女子大学短期大学部表現文化学科設置。
2015（平成27年）	●十文字学園女子大学人間生活学部健康栄養学科、文芸文化学科設置。 ●十文字学園女子大学短期大学部表現文化学科募集停止。 ●十文字学園女子大学人間福祉学科に保育士指定養成施設として社会福祉・保育コースを設置。 ●十文字学園女子大学短期大学部文学科（国語国文専攻、英語英文専攻）廃止。
2016（平成28年）	●十文字学園女子大学大学院人間生活学研究科食物栄養学専攻（博士後期課程）設置。
2017（平成29年）	●志村二三夫、大学第５代、短期大学部第７代学長に就任。 ●十文字学園女子大学短期大学部廃止。
2020（令和２年）	●十文字学園女子大学人間生活学部募集停止。 ●十文字学園女子大学人間生活学部（健康栄養学科、食物栄養学科、食品開発学科、人間福祉学科）、教育人文学部（幼児教育学科、児童教育学科、心理学科、文芸文化学科）、社会情報デザイン学部（社会情報デザイン学科）設置。

学園創立者　十文字こと先生と建学理念

十文字学園は1922年（大正11年）に設立され、2022年に100年を迎えました。その建学理念は「身をきたへ　心きたえて世の中に　たちてかひある　人と生きなむ」の学園歌に込められています。自分の力で世の中の役に立てる女性を育てたいという創立者の精神は、今でも脈脈と引き継がれています。

学びたい、学校がほしい

十文字学園の創立者十文字ことは、1870年（明治３年）京都府船井郡梅田村（現・京丹波町）で要職を務める父高畑清次郎、母高畑とみの長女として生まれた。時代は封建社会から近代社会への幕開けとなる変動期であった。

明治時代となり、新たにできた「学制」により各地に小学校が設置され義務化されたが、女性にとり「学ぶこと、学校に行くこと」はまだ遠いことであった。稲穂で目をつつき不自由になった母親に代わり、こと先生は、小学校３年で学校を辞め、家事すべてと、裁縫、機織り、田植え、稲刈りなど、農家の生活を支えることに努めた。女性に教育は必要ないというのが当時の考え方であり、女性が学ぶことは実現されないままであった。

こうした中でも、こと先生は、学びたい、覚えたいという意欲を常に強く持っていた。「先生になりたい」「近くに学校がほしい」という思いが、十文字学園建学の始まりであった。

最高の教育を受け、教師となる

その後、兄や小学校の恩師猪子先生の支援をうけ、京都府立女学校に就学。その後は東京に行き、東京女子高等師範学校で勉学に励み、23歳で卒業した（**写真１**）。当時の女性として最高レベルの教育をうけ教師しての道を歩みはじめ、鹿児島県尋常師範学校女子部や母校の京都府師範学校で教鞭をとった。

まだ女性では数少ない教師という専門職につき社会で活躍したこと先生は、現代の女性にとっても１つのキャリアモデルとなっている。

夫と事業運営、そして学園設立

22歳で渡米し、帰国後は青年実業家として活躍する十文字大元氏と結婚したのは、こと先生が29歳の時である。結婚後も私立日本女学校（現相模女子大学）で教員を務めた後は、家庭生活と夫の事業パートナーとして会社運

写真１　東京女子高等師範学校卒業記念
（明治26年　中列左より２人目）

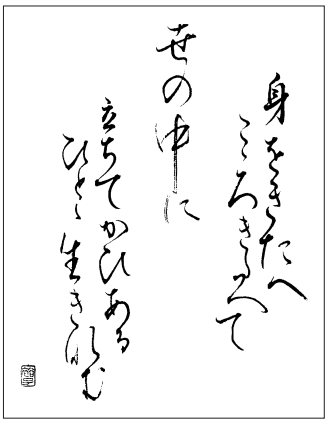


写真２　学園歌　（花井裕子氏書）

営にも関わった。また健康な身体を創る自彊術の普及につとめる社会活動も活発に行っていた。

50歳代に入り、いよいよ学校設立の夢の実現を目指した。当時女性のための教育機関はまだ整備されず、学校が少ないことが社会問題となっていた時期であった。

1922年（大正11年）にこと先生は、東京女子高等師範学校の学友である戸野みち氣氏、斯波安氏と共に、女性が学べる学校、健康な身体をつくるために自彊術を正課とする学校を創立した。その建学理念は「身をきたへ　心きたえて　世の中に　たちてかひある人と生きなむ」の学園歌（**写真２**）に込められている。またひとたび決めたことは困難にぶつかってもやりぬくという「自ら彊（つと）めて　やまない（自彊不息）」はこと先生の座右の銘でもある（**写真３**）。

夫の大元氏は財政面での支援を行い、当時自彊術の授業は大元氏の造られた道場で活発に行われていた（**写真４**）。

世界教育会議に出席し、私学の重要性に気づく

こと先生は59歳の時（1929年）、ジュネーブで開催された「第３回世界教育会議」に出席し（**写真５**）、私立学校が教育の要を担う欧米の教育状況を知り、改めて女性の私立学校の先頭にたつ決意を固めた。65歳（1935 年）のとき、こと先生が一切の責任を負う形で校長に就任し、校舎新築に着手し、学校名を十文字高等女学校と改めた。

生涯学ぶ姿勢を貫いた超現代女性

戦時中の東京大空襲で校舎を焼失したが、復興し、1951年（昭和26年）に理事長に就任。自身も若い人たちと共に学び、晩年に栄養学校に通うなど、生涯学びの姿勢を貫いている。1955年（昭和30年）、校舎に生徒たちが「十文字」の人文字を描いていたその時に、85歳の生涯を閉じた。「教育を受けたいと思う女性が一人でも多く学べる学校を作りたい」という少女時代の夢を実現し、未来への道を切り拓いた。次世代の女性たちの未来にかかわるこうした教育の事業を担い、学校経営という社会的役割を貫いたその姿は、女性の生涯にわたる生き方を示すキャリアを創りあげた先駆者であり、まさに明治生まれの超現代女性であるといえる。

（名誉教授 亀田温子）

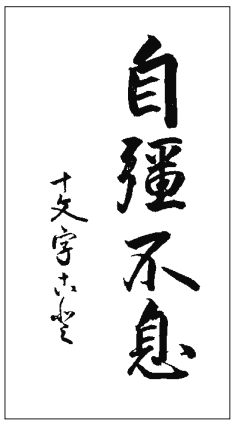


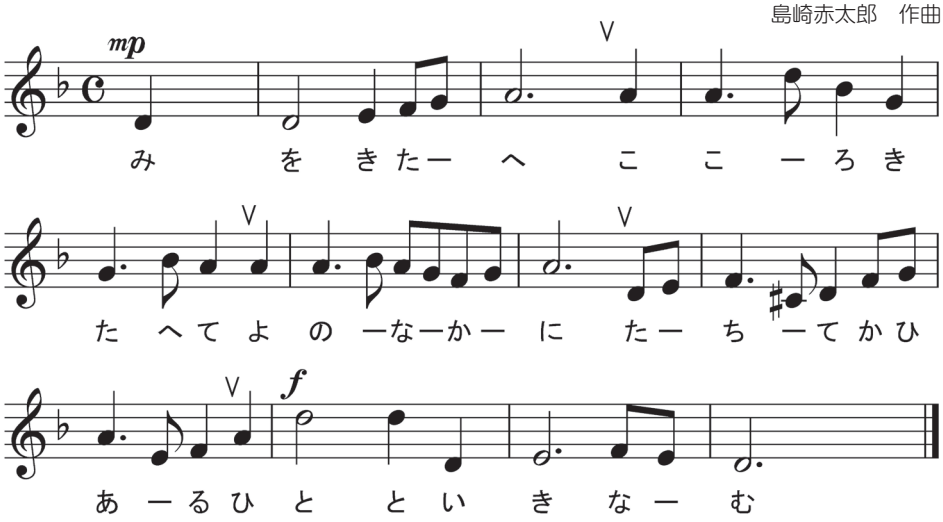
写真３　自彊不息
こと先生書

写真４　こと先生・大元先生

写真５　ペスタロッチ像の前にて
世界教育会議出席

学園歌

斯波　安　作詩
島崎赤太郎　作曲



身をきたへ
心きたへて
世の中に
たちてかひある
人と生きなむ

建学の柱、校歌の制定

校歌は学監斯波安により作詞され、東京音楽学校教授島崎赤太郎が作曲し、晴れの開校式（1922年、大正11年）で披露された。

「身を鍛へ心きたへて世の中に
立ちてかひある人と生きなむ」

という詞について斯波安は**「身を鍛え心を鍛えること即心身を鍛練することは、生をこの世にうけた人間が当然努力せねばならぬ第一の必要条件であります。いかなることをなすにも身体が丈夫に鍛えられておらず、また意思が薄弱であるとか、真面目に努力を続けることが出来ぬとかいうようでは、成功するものではありません。まして世の中に出て何か事業をし出そうとか、人の信用を得ようとか、また家庭の人となって夫を助け子供を立派に育て上げようとかいう場合に、どうしてそれが出来ましょう。」**と文華高等女学校校友会誌「文華」第1号（昭和2年3月発行）の中で説いている。

（『十文字学園70年史』より）